

Messerschmitt Me163B

タミヤ 1/100スケールプラスチックキット

製作・文:政府開発援助

1. Me163について

メッサーシュミットMe163「コメート」は第二次世界大戦末期にドイツ空軍に実戦配備された、世界初のロケット戦闘機である。ワルターロケットエンジンを搭載した無尾翼機で最高速度は約960km/hに達した。武装として30mm機関砲2門を装備し主として大型爆撃機の迎撃に当たったが、搭載燃料の限界から滞空時間が極めて短く、戦局を挽回するには至らなかった。

松本零士原作の漫画「ザ・コクピット」には本機が活躍する「エルベの蛍火」というエピソードがあり複座型のMe163が登場するが、実在した複座型とは異なる架空の機体である。

2. キットについて

キットの発売は1971年のことで、ジェット戦闘機Me262とのセットで、飾り台も付属しています(ちなみにタミヤミニジェットシリーズ中唯一の大戦機のキットである)。Me163の特徴である機状の降着装置は駐機(地上)状態と飛行状態のどちらかを選択できます。デカールはJG400と訓練小隊のものが付属しています。パネルラインは相方のMe262とは少々異なり、ほぼスジ彫りで再現されています。

3. 製作と塗装について

部品点数は少なく小じんまりとしており、組立そのものに困難を感じることはありません。但し年代が古く小スケールであることから細部が若干省略されているので、アクトハセガワ(中身はドラゴン?)の1/48キットを参考にコクピットや降着装置周辺を中心にディテールを追加しています。主翼に微妙に下半角が付いている様なので、接合部にプラペーパーを挟んで調整しました。ピトー管は切り飛ばし、主翼付根に真鍮線で30mm機銃の砲身を追加。また、飾り台を取り付けられるように後部噴射口の奥にエポキシパテを盛り付けて1mm真鍮棒を差し込めるようにしました。付属の飾り台は2機用で今回はちょっと都合が悪いので、同じタミヤの旧1/72大戦機シリーズのものを角度を調整して流用しました。

塗装はアクトハセガワのキットの塗装図を参考にしています。まずクレオスの缶スプレーのRLM76を吹き、機体上面のRLM83をラッカー系の筆塗りで塗り分けました。脚回りはラッカー系の黒とRLM02、コクピット等はフィールドブルー(やや青みを強めに調整)です。デカールは前述のアクトハセガワのキットを元にMDプリンタで自作しました。スミ入れはエナメルカラーの暗緑色とスモークブラックで軽く行い、最後にガンダムマーカのバートアイアンで噴射口周辺に軽く汚しを入れてからつや消しクリアでコートしています。



前面



後面

4. 製作過程



操縦席周辺をディテールアップし、着陸機枠のフレームを新造。



降着装置伸縮部はウォーターラインシリーズのジャンクパーツを流用した。



複座型のキャノピーは塩ビ板で新造。シートは複製して数を揃えた。



飾り台は1/72のものに手を加え、取付部と角度を調整している。